

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5167327号  
(P5167327)

(45) 発行日 平成25年3月21日 (2013. 3. 21)

(24) 登録日 平成24年12月28日 (2012. 12. 28)

(51) Int.Cl.

B 4 2 D 5/06 (2006.01)

F 1

B 4 2 D 5/06

A

請求項の数 4 (全 17 頁)

(21) 出願番号 特願2010-253519 (P2010-253519)  
(22) 出願日 平成22年11月12日 (2010. 11. 12)  
(65) 公開番号 特開2012-101498 (P2012-101498A)  
(43) 公開日 平成24年5月31日 (2012. 5. 31)  
審査請求日 平成22年11月12日 (2010. 11. 12)

(73) 特許権者 597067220  
株式会社トーダン  
東京都荒川区東尾久8-32-1  
(74) 代理人 100093067  
弁理士 二瓶 正敬  
(72) 発明者 強口 邦雄  
東京都荒川区東尾久8-32-1 株式会  
社トーダン内

審査官 小島 寛史

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 カレンダー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

同一の幅の用紙が6枚重ねられて、6枚の前記同一の幅の用紙の上端部で綴じられ、前記6枚の用紙のそれぞれは前記上端部と他の部分の間にミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、

手前から1枚目の用紙は、前記上端部の下部に所定の領域を有する第1段部を有し、前記第1段部には1月の暦が配置され、

手前から2枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記1枚目の用紙の前記第1段部に相当する部分に前記第1段部と略同一の大きさの領域を有する第2上段部と、前記第2上段部の下部に前記第2上段部と略同一の大きさの領域を有する第2中段部とを有し、前記第2上段部及び前記第2中段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第2上段部に4月の暦が配置され、前記第2中段部に2月の暦が配置され、前記第2中段部の下部に用紙が存在しない場合と存在する場合があります、用紙が存在するときは、ここに所定の領域を有する第2下段部が存在し、前記第2中段部及び前記第2下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、

手前から3枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記2枚目の用紙の前記第2上段部に相当する部分に前記第2上段部と略同一の大きさの領域を有する第3上段部と、前記第3上段部の下部で、前記2枚目の用紙の前記第2中段部に相当する部分に前記第2中段部と略同一の大きさの領域を有する第3中段部と、前記第3中段部の下部に所定の領域を有する第3下段部とを有し、前記第3上段部、前記第3中段部、前記第3下段部の間に切り離

10

20

し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第3上段部に7月の暦が配置され、前記第3中段部に5月の暦が配置され、前記第3下段部に3月の暦が配置され、

手前から4枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記3枚目の用紙の前記第3上段部に相当する部分に前記第3上段部と略同一の大きさの領域を有する第4上段部と、前記第4上段部の下部で、前記3枚目の用紙の前記第3中段部に相当する部分に前記第3中段部と略同一の大きさの領域を有する第4中段部と、前記第4中段部の下部で、前記3枚目の用紙の前記第3下段部に相当する部分に前記第3下段部と略同一の大きさの領域を有する第4下段部とを有し、前記第4上段部、前記第4中段部、前記第4下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第4上段部に10月の暦が配置され、前記第4中段部に8月の暦が配置され、前記第4下段部に6月の暦が配置され、

10

手前から5枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記4枚目の用紙の前記第4中段部に相当する部分に前記第4中段部と略同一の大きさの領域を有する第5中段部と、前記第5中段部の下部で、前記4枚目の用紙の前記第4下段部に相当する部分に前記第4下段部と略同一の大きさの領域を有する第5下段部とを有し、前記第5中段部及び前記第5下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第5中段部に11月の暦が配置され、前記第5下段部に9月の暦が配置され、

手前から6枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記5枚目の用紙の前記第5下段部に相当する部分に前記第5下段部と略同一の大きさの領域を有する第6下段部とを有し、前記第6下段部に12月の暦が配置されるように、

配列したカレンダー。

20

#### 【請求項2】

前記上端部と前記第5中段部の間に、前記4枚目の用紙の前記第4上段部に相当する部分に前記第4上段部と略同一の大きさの領域を有する第5上段部を有し、前記第5上段部に次年の1月の暦が配置される請求項1に記載のカレンダー。

#### 【請求項3】

前記上端部の下部に、前記5枚目の用紙の前記第5中段部に相当する部分に前記第5中段部と略同一の大きさの領域を有する第6中段部を有し、前記第6中段部に次年の2月の暦が配置される請求項1及び2に記載のカレンダー。

#### 【請求項4】

各用紙に配置されている暦は、1箇月が複数行で表示される請求項1から3までのいずれかに記載のカレンダー。

30

#### 【発明の詳細な説明】

#### 【技術分野】

#### 【0001】

本発明は、カレンダーに関し、特に3箇月分又はそれ以上の月の暦を一度に表示することができるカレンダーに関する。

#### 【背景技術】

#### 【0002】

これまで様々なカレンダーが開発され、実用化されている。実用化されたカレンダーの中には、複数箇月分の暦を一度に表示することができ、過ぎた月の暦を切り離すことで常に最新の複数箇月分の暦を一度に表示することができるカレンダーが多数存在する。このようなカレンダーの先行技術文献として、下記の特許文献1及び2が存在する。

40

なお、本願の文中に記載がある「上」及び「下」という方向を示す語は、カレンダーが壁に架けられて略垂直な使用状態での方向を示しているものである。

#### 【0003】

下記の特許文献1には、1、4、7、10月の暦がそれぞれ記載されている4枚の用紙を、若い月の暦が手前になるように重ねて綴じた第1部と、2、5、8、11月の暦がそれぞれ記載されている4枚の用紙を、若い月の暦が手前になるように重ねて綴じた第2部と、3、6、9、12月の暦がそれぞれ記載されている4枚の用紙を、若い月の暦が手前になるように重ねて綴じた第3部とが、第1部、第2部、第3部の順で台紙に上から張り

50

付けられているように配されているカレンダーについての記載がある。なお、それぞれの用紙には、暦が記載されている部分との間に、相互に切り離し可能なミシン目が入っていて、また、それぞれの用紙の大きさは同一である。

#### 【 0 0 0 4 】

下記の特許文献 2 には、同一の大きさの用紙が 4 枚重ねられて、それぞれの用紙には左半分側を上下方向に略同一の大きさの領域を三つ有し、それぞれの領域は切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、それぞれの用紙の各領域には用紙の上から順に月の暦が配置されるカレンダーについての記載がある。

#### 【 0 0 0 5 】

また、図 7 ~ 図 1 1 に、複数箇月を表示するカレンダーの他の従来例を示す。図 7 ~ 図 9 は複数箇月を表示する従来のカレンダーを構成する用紙が綴じられる前の状態例を示し、図 1 0 及び図 1 1 は図 7 ~ 図 9 のカレンダーの使用例を示す。なお、従来のカレンダー全体を図 1 0 及び図 1 1 では、参照符号 1 で示している。

#### 【 0 0 0 6 】

複数箇月を表示する従来のカレンダー 1 は、図 7 ~ 図 9 に示されるような、表紙を配置した用紙 1 0 とそれぞれの用紙に 3 箇月分の暦を配置した 5 枚の用紙 2 0 ~ 6 0 とを重ね合わせ、重ね合わせた 6 枚の用紙 1 0 ~ 6 0 は、その上端部 1 1 D、2 1 D、3 1 D、4 1 D、5 1 D、6 1 D で綴じられ、5 枚の用紙 1 0 ~ 5 0 のそれぞれには、上端部 1 1 D、2 1 D、3 1 D、4 1 D、5 1 D と他の部分の間にミシン目 1 3 A、2 3 A、3 3 A、4 3 A、5 3 A が入っていて、相互に切り離し可能とされ、4 枚の用紙 2 0 ~ 5 0 のそれぞれに配置されている暦は 1 箇月分ごとに切り離せるようにミシン目を施したものである。なお、用紙 1 0 には上端部 1 1 D を除いた部分の領域 1 1 A に表紙が配置され（図 7 の左側を参照）、用紙 2 0 には、上端部 2 1 D を除いた部分に上から略同一の大きさに配されている上段部 2 1 A、中段部 2 1 B、下段部 2 1 C に上から 3 月、2 月、1 月の暦が配置され（図 7 の右側を参照）、用紙 3 0 には、上端部 3 1 D を除いた部分に上から略同一の大きさに配されている上段部 3 1 A、中段部 3 1 B、下段部 3 1 C に上から 6 月、5 月、4 月の暦が配置され（図 8 の左側を参照）、用紙 4 0 には、上端部 4 1 D を除いた部分に上から略同一の大きさに配されている上段部 4 1 A、中段部 4 1 B、下段部 4 1 C に上から 9 月、8 月、7 月の暦が配置され（図 8 の右側を参照）、用紙 5 0 には、上端部 5 1 D を除いた部分に上から略同一の大きさに配されている上段部 5 1 A、中段部 5 1 B、下段部 5 1 C に上から 1 2 月、1 1 月、1 0 月の暦が配置され（図 9 の左側を参照）、用紙 6 0 には、上端部 6 1 D を除いた部分に上から略同一の大きさに配されている上段部 6 1 A、中段部 6 1 B、下段部 6 1 C に上から次年の 3 月、2 月、1 月の暦が配置されている（図 9 の右側を参照）。上段部 2 1 A 及び中段部 2 1 B と、中段部 2 1 B 及び下段部 2 1 C と、上段部 3 1 A 及び中段部 3 1 B と、中段部 3 1 B 及び下段部 3 1 C と、上段部 4 1 A 及び中段部 4 1 B と、中段部 4 1 B 及び下段部 4 1 C と、上段部 5 1 A 及び中段部 5 1 B と、中段部 5 1 B 及び下段部 5 1 C との間には、相互に切り離し可能なミシン目 2 3 B、2 3 C、3 3 B、3 3 C、4 3 B、4 3 C、5 3 B、5 3 C がある。

#### 【 0 0 0 7 】

従来の複数箇月を表示するカレンダー 1 の使用例を、図 1 0 及び図 1 1 を参照して説明する。なお、図 1 0 は時間の経過により、カレンダーの使用状態を左から右へと推移して示しており、図 1 1 は図 1 0 の続きで、同様に左から右へと推移して示している。まず、表紙が配置されている領域 1 1 A を上端部 1 1 D からミシン目 1 3 A に沿って切り離すことで、1 ~ 3 月の暦が下から順に配置されている用紙 2 0 が現れる（図 1 0 を参照）。1 月が経過した場合、1 月の暦が配置された下段部 2 1 C をミシン目 2 3 C に沿って切り離して、次の用紙 2 0 の 4 月の暦が配置された下段部 3 1 C が現れることで、下から 4 月、2 月、3 月の並びで表示される（図 1 1 の左側を参照）。2 月が経過した場合、2 月の暦が配置された中段部 2 1 B をミシン目 2 3 B に沿って切り離して、次の用紙 3 0 の 5 月の暦が配置された中段部 3 1 B が現れることで、下から 4 月、5 月、3 月の並びで表示される（図 1 1 の真ん中を参照）。3 月が経過した場合、3 月の暦が配置された上段部 2 1 A

10

20

30

40

50

をミシン目 2 3 A に沿って切り離して、次の用紙 3 0 の 6 月の暦が配置された上段部 3 1 A が現れることで、下から 4 月、5 月、6 月の並びで表示される（図 1 1 の右側を参照）。4 月が経過した場合、4 月の暦が配置された下段部 3 1 C をミシン目 3 3 C に沿って切り離して、次の用紙 4 0 の 7 月の暦が配置された下段部 4 1 C が現れることで、下から 7 月、5 月、6 月の並びで表示される。

このように、カレンダー 1 を使用した場合、経過した月の暦を順に切り離すことにより、常に 2 箇月先までの暦を 1 度に表示することができる。

#### 【 0 0 0 8 】

ところで、特許文献 1 に開示されたカレンダーの構成は、1、4、7、10 月の暦がそれぞれ記載されている 4 枚の用紙を、若い月の暦が手前になるように重ねて綴じた第 1 部と、2、5、8、11 月の暦がそれぞれ記載されている 4 枚の用紙を、若い月の暦が手前になるように重ねて綴じた第 2 部と、3、6、9、12 月の暦がそれぞれ記載されている 4 枚の用紙を、若い月の暦が手前になるように重ねて綴じた第 3 部とが、上から第 1 部、第 2 部、第 3 部の順に台紙上に配置されるようになっている。すなわち、カレンダー製作工程において、暦が記載されている各用紙を所定の配置で重ねて綴じ、それぞれ綴じたものを所定の位置に配置するという煩雑な製作工程になってしまい、カレンダー製作における多大な負担となっている。

#### 【 0 0 0 9 】

また、特許文献 2 に開示されたカレンダーの構成は、同一の大きさの用紙が 4 枚重ねられて、それぞれの用紙には左半分側を上下方向に略同一の大きさの領域を 3 つ有し、それぞれの領域は切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、それぞれの用紙の各領域には用紙の上から順に月の暦が配置されるようになっている。すなわち、過ぎた月の暦が配置されている領域を切り離すには、上、下、側面にあるミシン目を綺麗に切り離す綿密な作業が行う必要があるため、カレンダーの使用者にとって多大な負担となっている。

#### 【 0 0 1 0 】

このように、上記の特許文献 1 及び 2 に記載の構成は、カレンダー製作者及び使用者にとって多大な負担となっているが、かかる負担を解消した他の従来のカレンダーとして、図 7 ~ 図 1 1 に示すようなカレンダー 1 がある。

#### 【 0 0 1 1 】

上述したように、カレンダー 1 は、表紙を配置した用紙 1 0 とそれぞれの用紙に 3 箇月分の暦を配置した 5 枚の用紙 2 0 ~ 6 0 とを重ね合わせ、重ね合わせた 6 枚の用紙 1 0 ~ 6 0 は、その上端部 1 1 D、2 1 D、3 1 D、4 1 D、5 1 D、6 1 D で綴じられ、5 枚の用紙 1 0 ~ 5 0 のそれぞれには、上端部 1 1 D、2 1 D、3 1 D、4 1 D、5 1 D と他の部分の間にミシン目 1 3 A、2 3 A、3 3 A、4 3 A、5 3 A が入っていて、相互に切り離し可能とされ、4 枚の用紙 2 0 ~ 5 0 のそれぞれに配置されている暦は 1 箇月分ごとに切り離せるようにミシン目を施したものである。すなわち、カレンダー 1 は 1 枚の用紙に 3 箇月分の暦を配置した用紙 2 0 ~ 6 0 の 5 枚を重ね合わせているため、特許文献 1 に記載の発明のように、暦が記載されている各用紙を所定の配置で重ねて綴じ、それぞれ綴じたものを所定の位置に配置するという煩雑な製作工程を行う必要がない。また、カレンダー 1 では、過ぎた月の暦が配置された領域を切り離す場合、過ぎた月の暦が配置された領域の上側にあるミシン目のみを相互に切り離せばよいため、特許文献 2 に記載の発明のように、過ぎた月の暦が配置された領域の上、下、側面にあるミシン目を綺麗に切り離す綿密な作業を行う必要がない。

#### 【 先行技術文献 】

#### 【 特許文献 】

#### 【 0 0 1 2 】

【 特許文献 1 】 実開昭 5 2 - 1 2 9 3 5 2 号公報（第 3 図）

【 特許文献 2 】 実開昭 5 4 - 1 9 0 5 2 号公報（3 ページ 1 7 行目 ~ 4 ページ 1 3 行目、第 4 図 ~ 第 7 図）

10

20

30

40

50

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0013】

しかしながら、上述したカレンダー1で一度に表示される3箇月分の暦の表示状態は、下から上に向かって、1月、2月、3月の順、4月、2月、3月の順、4月、5月、3月の順、4月、5月、6月の順、7月、5月、6月の順、7月、8月、6月の順、7月、8月、9月の順、10月、8月、9月の順、10月、11月、9月の順、10月、11月、12月の順となっている。すなわち、カレンダー1で一度に表示される3箇月分の暦の表示状態において、カレンダーの使用者は、ある月と次の月を順次見ていくとき、各月の配列に起因して、部分的に月の暦を上から下の順に見るという行為を行っているものの、月の暦を下から上の順に見るという行為を圧倒的に多く行っている。すなわち、下から上の順に見ざるを得ない頻度が極めて高くなっている。

10

## 【0014】

このような月の暦を下から上の順に見るという行為は、縦書きの文を上から下に読んでいく行為に慣れているカレンダーの使用者にとって、視認性が悪く、また、カレンダーの見た目の印象に違和感を感じるといった問題がある。

## 【0015】

本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、上記の技術的な課題を解決し、カレンダーの使用者の視認性をよくし、かつ、意匠的にも優れたカレンダーを提供することを目的とする。

20

## 【課題を解決するための手段】

## 【0016】

上記課題を解決するために、本発明のカレンダーは、6枚の用紙が重ね合わされ、その上端部で綴じられ、手前から1枚目の用紙には1月の暦のみが配置され、手前から2枚目の用紙には、1枚目の用紙の1月の暦に相当する部分に4月の暦が配置され、4月の暦の下部に2月の暦が配置され、2月の暦の下部に用紙が存在しない形とされ、あるいは、2月の暦の下部に所定の領域を有する用紙が存在する場合は、使用時にその部分が切り離し可能である形とされ、手前から3枚目の用紙には、2枚目の用紙の4月の暦に相当する部分に7月の暦が配置され、7月の暦の下部に5月、3月の暦が順に配置され、手前から4枚目の用紙には、3枚目の用紙の7月の暦に相当する部分に10月の暦が配置され、10月の暦の下部に8月、6月の暦が順に配置され、手前から5枚目の用紙には、4枚目の用紙の8月の暦に相当する部分に11月の暦が配置され、11月の暦の下部に9月の暦が配置され、手前から6枚目の用紙には、5枚目の用紙の9月の暦に相当する部分に12月の暦が配置されるよう構成されている。

30

## 【0017】

すなわち、本発明によれば、同一の幅の用紙が6枚重ねられて、6枚の前記同一の幅の用紙の上端部で綴じられ、前記6枚の用紙のそれぞれは前記上端部と他の部分の間にミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、

手前から1枚目の用紙は、前記上端部の下部に所定の領域を有する第1段部を有し、前記第1段部には1月の暦が配置され、

40

手前から2枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記1枚目の用紙の前記第1段部に相当する部分に前記第1段部と略同一の大きさの領域を有する第2上段部と、前記第2上段部の下部に前記第2上段部と略同一の大きさの領域を有する第2中段部とを有し、前記第2上段部及び前記第2中段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第2上段部に4月の暦が配置され、前記第2中段部に2月の暦が配置され、前記第2中段部の下部に用紙が存在しない場合と存在する場合があります、用紙が存在するときは、ここに所定の領域を有する第2下段部が存在し、前記第2中段部及び前記第2下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、

手前から3枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記2枚目の用紙の前記第2上段部に相当する部分に前記第2上段部と略同一の大きさの領域を有する第3上段部と、前記第3

50

上段部の下部で、前記 2 枚目の用紙の前記第 2 中段部に相当する部分に前記第 2 中段部と略同一の大きさの領域を有する第 3 中段部と、前記第 3 中段部の下部に所定の領域を有する第 3 下段部とを有し、前記第 3 上段部、前記第 3 中段部、前記第 3 下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第 3 上段部に 7 月の暦が配置され、前記第 3 中段部に 5 月の暦が配置され、前記第 3 下段部に 3 月の暦が配置され、

手前から 4 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記 3 枚目の用紙の前記第 3 上段部に相当する部分に前記第 3 上段部と略同一の大きさの領域を有する第 4 上段部と、前記第 4 上段部の下部で、前記 3 枚目の用紙の前記第 3 中段部に相当する部分に前記第 3 中段部と略同一の大きさの領域を有する第 4 中段部と、前記第 4 中段部の下部で、前記 3 枚目の用紙の前記第 3 下段部に相当する部分に前記第 3 下段部と略同一の大きさの領域を有する第 4 下段部とを有し、前記第 4 上段部、前記第 4 中段部、前記第 4 下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第 4 上段部に 10 月の暦が配置され、前記第 4 中段部に 8 月の暦が配置され、前記第 4 下段部に 6 月の暦が配置され、

10

手前から 5 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記 4 枚目の用紙の前記第 4 中段部に相当する部分に前記第 4 中段部と略同一の大きさの領域を有する第 5 中段部と、前記第 5 中段部の下部で、前記 4 枚目の用紙の前記第 4 下段部に相当する部分に前記第 4 下段部と略同一の大きさの領域を有する第 5 下段部とを有し、前記第 5 中段部及び前記第 5 下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第 5 中段部に 11 月の暦が配置され、前記第 5 下段部に 9 月の暦が配置され、

手前から 6 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記 5 枚目の用紙の前記第 5 下段部に相当する部分に前記第 5 下段部と略同一の大きさの領域を有する第 6 下段部とを有し、前記第 6 下段部に 12 月の暦が配置されるように、

20

配列したカレンダーが提供される。

#### 【0018】

また、前記上端部と前記第 5 中段部の間に、前記 4 枚目の用紙の前記第 4 上段部に相当する部分に前記第 4 上段部と略同一の大きさの領域を有する第 5 上段部を有し、前記第 5 上段部に次年の 1 月の暦が配置されることは、本発明の好ましい態様である。

#### 【0019】

また、前記上端部の下部に、前記 5 枚目の用紙の前記第 5 中段部に相当する部分に前記第 5 中段部と略同一の大きさの領域を有する第 6 中段部を有し、前記第 6 中段部に次年の 2 月の暦が配置されることは、本発明の好ましい態様である。

30

#### 【0020】

また、各用紙に配置されている暦は、1 箇月が複数行で表示されることは、本発明の好ましい態様である。

#### 【発明の効果】

#### 【0021】

本発明により、カレンダーの使用者が月の暦を上から下の順に見るという行為の頻度が極めて高いカレンダーとなるため、カレンダーの使用者の視認性がよくなり、かつ、カレンダーの見た目の印象の違和感が少なくなるという効果を奏する。

また、手前から 2 枚目の用紙では、2 月の暦の下部に用紙が不要なため、紙資源を削減させることができるという効果も奏する。

40

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0022】

【図 1】本発明の第 1 の実施形態によるカレンダーを構成する用紙の 1 枚目（1 ページ）の用紙 110 及び 2 枚目（2 ページ）の用紙 120 の状態例を示す説明図である。

【図 2】本発明の第 1 の実施形態によるカレンダーを構成する用紙の 3 枚目（3 ページ）の用紙 130 及び 4 枚目（4 ページ）の用紙 140 の状態例を示す説明図である。

【図 3】本発明の第 1 の実施形態によるカレンダーを構成する用紙の 5 枚目（5 ページ）の用紙 150 及び 6 枚目（6 ページ）の用紙 160 の状態例を示す説明図である。

【図 4】本発明の第 1 の実施形態によるカレンダーの使用例を示す説明図である。

50

【図 5】本発明の第 1 の実施形態によるカレンダーの使用例で、図 4 の続きを示す説明図である。

【図 6】本発明の第 2 の実施形態によるカレンダーを構成する用紙の 2 枚目（2 ページ）の用紙 1 2 0 0 の状態例を示す説明図である。

【図 7】複数箇月を表示する従来のカレンダーを構成する用紙の 1 枚目（1 ページ）の用紙 1 0 及び 2 枚目（2 ページ）の用紙 2 0 の状態を示す説明図である。

【図 8】複数箇月を表示する従来のカレンダーを構成する用紙の 3 枚目（3 ページ）の用紙 3 0 及び 4 枚目（4 ページ）の用紙 4 0 の状態を示す説明図である。

【図 9】複数箇月を表示する従来のカレンダーを構成する用紙の 5 枚目（5 ページ）の用紙 5 0 及び 6 枚目（6 ページ）の用紙 6 0 の状態を示す説明図である。

10

【図 1 0】複数箇月を表示する従来のカレンダーの使用例を示す説明図である。

【図 1 1】複数箇月を表示する従来のカレンダーの使用例で、図 1 0 の続きを示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0 0 2 3】

以下に、本発明のカレンダーの第 1 の実施形態及び第 2 の実施形態について、それぞれ説明する。

< 第 1 の実施形態 >

以下、本発明の第 1 の実施形態について、図 1 ~ 図 5 を参照して説明する。図 1 ~ 図 3 は、複数箇月を表示する本発明のカレンダーの第 1 の実施形態を構成する用紙が綴じられる前の状態例を示し、図 4 及び図 5 は図 1 ~ 図 3 のカレンダーの使用例を示す。

20

【0 0 2 4】

まず、複数箇月を表示する本発明のカレンダー 1 0 0 を構成する各用紙を、図 1 ~ 図 3 を用いて説明する。

まず、本発明のカレンダー 1 0 0 は、6 枚の用紙 1 1 0 ~ 1 6 0 を重ね合わせ、重ね合わせた用紙 1 1 0 ~ 1 6 0 の 6 枚は 6 枚の用紙 1 1 0 ~ 1 6 0 の上端部 1 1 1 D、1 2 1 D、1 3 1 D、1 4 1 D、1 5 1 D、1 6 1 D で綴じられ、5 枚の用紙 1 1 0 ~ 1 5 0 のそれぞれには上端部 1 1 1 D、1 2 1 D、1 3 1 D、1 4 1 D、1 5 1 D と他の部分の間にミシン目 1 1 3 A、1 2 3 A、1 3 3 A、1 4 3 A、1 5 3 A が入っていて、相互に切り離し可能とされ、5 枚の用紙 1 1 0 ~ 1 5 0 のそれぞれに配置されている暦は 1 箇月分ごとに切り離せるようにミシン目を施したものである。

30

【0 0 2 5】

本発明のカレンダー 1 0 0 を構成する 6 枚の用紙 1 1 0 ~ 1 6 0 のそれぞれについて説明する。

カレンダー 1 0 0 の 1 枚目（1 ページ）である用紙 1 1 0 は、図 1 の左側に示すように、上端部 1 1 1 D と、その上端部 1 1 1 D の下部に所定の領域を有する第 1 段部 1 1 1 A と、第 1 段部 1 1 1 A の下部で第 1 段部 1 1 1 A と同じ横幅を持つ領域を有する第 1 下段部 1 1 1 B とで構成されている。第 1 段部 1 1 1 A には 1 月の暦 1 1 2 A が配置され、第 1 下段部 1 1 1 B には表紙が配置されている。

【0 0 2 6】

40

上端部 1 1 1 D 及び第 1 段部 1 1 1 A と、第 1 段部 1 1 1 A 及び第 1 下段部 1 1 1 B のそれぞれの間には、切り離し用のミシン目 1 1 3 A、1 1 3 B が入っている。

また、第 1 下段部 1 1 1 B に配置されている表紙には、本発明のカレンダー 1 0 0 の使用方法の説明、広告、写真などの情報を配置してもよい。また、第 1 下段部 1 1 1 B は、第 1 段部 1 1 1 A と同じ横幅を持つ領域としなくてもよく、どのような大きさの領域を設定してもよい。さらに、第 1 下段部 1 1 1 B には、何も存在しない形とすることができる。この場合、第 1 下段部 1 1 1 B が存在しない（用紙が不要になる）ことで、紙資源を削減させることができるという効果を奏する。

【0 0 2 7】

カレンダー 1 0 0 の 2 枚目（2 ページ）である用紙 1 2 0 は、図 1 の右側に示すように

50

、上端部 1 2 1 D と、その上端部 1 2 1 D の下部で、1 枚目の用紙 1 1 0 の第 1 段部 1 1 1 A に相当する部分に第 1 段部 1 1 1 A と略同一の大きさの領域を有する第 2 上段部 1 2 1 A と、第 2 上段部 1 2 1 A の下部で、第 2 上段部 1 2 1 A と略同一の大きさの領域を有する第 2 中段部 1 2 1 B とで構成されている。なお、第 2 中段部 1 2 1 B は第 2 上段部 1 2 1 A と同じ横幅としなくてもよい。

【 0 0 2 8 】

第 2 上段部 1 2 1 A には 4 月の暦 1 2 2 A が配置され、第 2 中段部 1 2 1 B には 2 月の暦 1 2 2 B が配置されている。上端部 1 2 1 D 及び第 2 上段部 1 2 1 A と、第 2 上段部 1 2 1 A 及び第 2 中段部 1 2 1 B のそれぞれの間には、切り離し用のミシン目 1 2 3 A、1 2 3 B が入っている。

10

【 0 0 2 9 】

カレンダー 1 0 0 の 3 枚目 ( 3 ページ ) である用紙 1 3 0 は、図 2 の左側に示すように、上端部 1 3 1 D と、その上端部 1 3 1 D の下部で、2 枚目の用紙 1 2 0 の第 2 上段部 1 2 1 A に相当する部分に第 2 上段部 1 2 1 A と略同一の大きさの領域を有する第 3 上段部 1 3 1 A と、第 3 上段部 1 3 1 A の下部で、2 枚目の用紙 1 2 0 の第 2 中段部 1 2 1 B に相当する部分に第 2 中段部 1 2 1 B と略同一の大きさの領域を有する第 3 中段部 1 3 1 B と、第 3 中段部 1 3 1 B の下部で、第 3 中段部 1 3 1 B と同じ横幅を持つ領域を有する第 3 下段部 1 3 1 C とで構成されている。なお、第 3 下段部 1 3 1 C は、第 3 中段部 1 3 1 B と同じ横幅としなくてもよい。

【 0 0 3 0 】

20

第 3 上段部 1 3 1 A には 7 月の暦 1 3 2 A が配置され、第 3 中段部 1 3 1 B には 5 月の暦 1 3 2 B が配置され、第 3 下段部 1 3 1 C には 3 月の暦 1 3 2 C が配置されている。上端部 1 3 1 D 及び第 3 上段部 1 3 1 A と、第 3 上段部 1 3 1 A 及び第 3 中段部 1 3 1 B と、第 3 中段部 1 3 1 B 及び第 3 下段部 1 3 1 C のそれぞれの間には、切り離し用のミシン目 1 3 3 A、1 3 3 B、1 3 3 C が入っている。

【 0 0 3 1 】

カレンダー 1 0 0 の 4 枚目 ( 4 ページ ) である用紙 1 4 0 は、図 2 の右側に示すように、上端部 1 4 1 D と、その上端部 1 4 1 D の下部で、3 枚目の用紙 1 3 0 の第 3 上段部 1 3 1 A に相当する部分に第 3 上段部 1 3 1 A と略同一の大きさの領域を有する第 4 上段部 1 4 1 A と、第 4 上段部 1 4 1 A の下部で、3 枚目の用紙 1 3 0 の第 3 中段部 1 3 1 B に相当する部分に第 3 中段部 1 3 1 B と略同一の大きさの領域を有する第 4 中段部 1 4 1 B と、第 4 中段部 1 4 1 B の下部で、3 枚目の用紙 1 3 0 の第 3 下段部 1 3 1 C に相当する部分に第 3 下段部 1 3 1 C と略同一の大きさの領域を有する第 4 下段部 1 4 1 C とで構成されている。

30

【 0 0 3 2 】

第 4 上段部 1 4 1 A には 1 0 月の暦 1 4 2 A が配置され、第 4 中段部 1 4 1 B には 8 月の暦 1 4 2 B が配置され、第 4 下段部 1 4 1 C には 6 月の暦 1 4 2 C が配置されている。上端部 1 4 1 D 及び第 4 上段部 1 4 1 A と、第 4 上段部 1 4 1 A 及び第 4 中段部 1 4 1 B と、第 4 中段部 1 4 1 B 及び第 4 下段部 1 4 1 C のそれぞれの間には、切り離し用のミシン目 1 4 3 A、1 4 3 B、1 4 3 C が入っている。

40

【 0 0 3 3 】

カレンダー 1 0 0 の 5 枚目 ( 5 ページ ) である用紙 1 5 0 は、図 3 の左側に示すように、上端部 1 5 1 D と、その上端部 1 5 1 D の下部で、4 枚目の用紙 1 4 0 の第 4 上段部 1 4 1 A に相当する部分に第 4 上段部 1 4 1 A と略同一の大きさの領域を有する第 5 上段部 1 5 1 A と、第 5 上段部 1 5 1 A の下部で、4 枚目の用紙 1 4 0 の第 4 中段部 1 4 1 B に相当する部分に第 4 中段部 1 4 1 B と略同一の大きさの領域を有する第 5 中段部 1 5 1 B と、第 5 中段部 1 5 1 B の下部で、4 枚目の用紙 1 4 0 の第 4 下段部 1 4 1 C に相当する部分に第 4 下段部 1 4 1 C と略同一の大きさの領域を有する第 5 下段部 1 5 1 C とで構成されている。

【 0 0 3 4 】

50



第5上段部151Aには次年の1月の暦152Aが配置され、第5中段部151Bには11月の暦152Bが配置され、第5下段部151Cには9月の暦152Cが配置されている。上端部151D及び第5上段部151Aと、第5上段部151A及び第5中段部151Bと、第5中段部151B及び第5下段部151Cのそれぞれの間には、切り離し用のミシン目153A、153B、153Cが入っている。なお、図3の左側に示すように、第5上段部151Aには次年の1月の暦152Aを配置するようにしているが、次年の1月の暦152Aを配置しなくてもよい。また、第5上段部151Aには、月の暦以外の情報である写真や広告などを配置してもよい。

【0035】

カレンダー100の6枚目(6ページ)である用紙160は、図3の右側に示すように、上端部161Dの下部で、5枚目の用紙150の第5中段部151Bに相当する部分に第5中段部151Bと略同一の大きさの領域を有する第6中段部161Bと、第6中段部161Bの下部で、5枚目の用紙150の第5下段部151Cに相当する部分に第5下段部151Cと略同一の大きさの領域を有する第6下段部161Cとで構成されている。

【0036】

第6中段部161Bには次年の2月の暦162Bが配置され、第6下段部161Cには12月の暦162Cが配置されている。なお、図3の右側に示すように、第6中段部161Bには次年の2月の暦162Bを配置するようにしているが、次年の2月の暦162Bを配置しなくてもよい。また、上端部161Dと第6下段部161Cの間(第6中段部161Bを含む)には、月の暦以外の情報である写真や広告などを配置してもよい。

【0037】

次に、第1実施形態での本発明のカレンダー100の使用例を、図4及び図5を参照して説明する。なお、図4は時間の経過により、カレンダーの使用状態を左から右へと推移して示しており、図5は図4の続きで、同様に左から右へと推移して示している。

【0038】

図4の左側に示すように、本発明のカレンダー100の使用前の状態を示している。まず、カレンダー100の1枚目の用紙110の第1下段部111Bをミシン目113Bに沿って第1段部111Aから切り離す。第1下段部111Bを切り離すことで、2枚目の用紙120の第2中段部121Bと、3枚目の用紙130の第3下段部131Cとが現れる。すなわち、上から1月、2月、3月の並びで表示される(図4の右側を参照)。

【0039】

1月が経過した場合、1月の暦112Aが配置された第1段部111Aをミシン目113Aに沿って切り離して、2枚目の用紙120の4月の暦122Aが配置された第2上段部121Aが現れることで、上から4月、2月、3月の並びで表示される(図5の左側を参照)。2月が経過した場合、2月の暦122Bが配置された第2中段部121Bをミシン目123Bに沿って切り離して、3枚目の用紙130にある、5月の暦132Bが配置された第3中段部131Bが現れることで、上から4月、5月、3月の並びで表示される(図5の中央の図面を参照)。3月が経過した場合、3月の暦132Cが配置された第3下段部131Cをミシン目133Cに沿って切り離して、4枚目の用紙140の6月の暦142Cが配置された第4下段部141Cが現れることで、上から4月、5月、6月の並びで表示される(図5の右側を参照)。4月が経過した場合、4月の暦122Aが配置された第2上段部121Aをミシン目123Aに沿って切り離して、3枚目の用紙130の7月の暦132Aが配置された第3上段部131Aが現れることで、上から7月、5月、6月の並びで表示される。

【0040】

なお、上述した実施形態では月の暦を配置するとしているが、これは、用紙に各月の暦を印刷することや、各月の暦を印刷した1箇月分の紙片を用紙に貼り付けることなどである。

また、用紙110の第1下段部111Bと4枚目の用紙130~160のそれぞれの第3~6下段部131C~161Cの下部に、所定の領域を設けてもよい。その所定の領域に

10

20

30

40

50

は、月の暦以外の情報である写真や広告などを配置してもよい。

【 0 0 4 1 】

また、上述した第 1 の実施形態では、常に 2 箇月先までの暦を 1 度に表示することとしているが、1 度に表示するのは 3 箇月以上であってもよい。

例えば、3 箇月先までの暦を 1 度に表示する構成の一例は、以下のとおりである。

【 0 0 4 2 】

同一の幅の用紙が 6 枚重ねられて、6 枚の前記同一の幅の用紙の上端部で綴じられ、前記 6 枚の用紙のそれぞれは前記上端部と他の部分の間にミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、

手前から 1 枚目の用紙は、前記上端部の下部に所定の領域を有する第 1 段部を有し、前記第 1 段部には 1 月の暦が配置され、

手前から 2 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記 1 枚目の用紙の前記第 1 段部に相当する部分に前記第 1 段部と略同一の大きさの領域を有する第 2 上段部と、前記第 2 上段部の下部に前記第 2 上段部と略同一の大きさの領域を有する第 2 中段部とを有し、前記第 2 上段部及び前記第 2 中段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第 2 上段部に 5 月の暦が配置され、前記第 2 下段部に 2 月の暦が配置され、前記第 2 中段部の下部に用紙が存在しない場合と存在する場合があります、用紙が存在するときは、ここに所定の領域を有する第 2 下段部が存在し、前記第 2 中段部及び前記第 2 下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、

手前から 3 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記 2 枚目の用紙の前記第 2 上段部に相当する部分に前記第 2 上段部と略同一の大きさの領域を有する第 3 上段部と、前記第 3 上段部の下部で、前記 2 枚目の用紙の前記第 2 下段部に相当する部分に前記第 2 下段部と略同一の大きさの領域を有する第 3 中段部と、前記第 3 中段部の下部に所定の領域を有する第 3 下段部とを有し、前記第 3 上段部、前記第 3 中段部、前記第 3 下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第 3 上段部に 9 月の暦が配置され、前記第 3 中段部に 6 月の暦が配置され、前記第 3 下段部に 3 月の暦が配置され、

手前から 4 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記 3 枚目の用紙の前記第 3 中段部に相当する部分に前記第 3 中段部と略同一の大きさの領域を有する第 4 中上段部と、前記第 4 中上段部の下部で、前記 3 枚目の用紙の前記第 3 下段部に相当する部分に前記第 3 下段部と略同一の大きさの領域を有する第 4 中下段部と、前記第 4 中下段部の下部に所定の領域を有する第 4 下段部とを有し、前記第 4 中上段部、前記第 4 中下段部、前記第 4 下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第 4 中上段部に 10 月の暦が配置され、前記第 4 中下段部に 7 月の暦が配置され、前記第 4 下段部に 4 月の暦が配置され、

手前から 5 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記 4 枚目の用紙の前記第 4 中下段部に相当する部分に前記第 4 中下段部と略同一の大きさの領域を有する第 5 中下段部と、前記第 5 中下段部の下部で、前記 4 枚目の用紙の前記第 4 下段部に相当する部分に前記第 4 下段部と略同一の大きさの領域を有する第 5 下段部とを有し、前記第 5 中下段部及び前記第 5 下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第 5 中下段部に 11 月の暦が配置され、前記第 5 下段部に 8 月の暦が配置され、

手前から 6 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記 5 枚目の用紙の前記第 5 下段部に相当する部分に前記第 5 下段部と略同一の大きさの領域を有する第 6 下段部とを有し、前記第 6 下段部に 12 月の暦が配置されるように、

配列したカレンダー。

【 0 0 4 3 】

また、上述した第 1 の実施形態では、カレンダー 100 を構成する用紙は 6 枚としているが、6 枚以上であってもよい。

例えば、本発明のカレンダーが N 枚 ( N 6 ) で構成されている場合の一例は、以下のとおりである。なお、N は整数である。

【 0 0 4 4 】

同一の幅の用紙が $N$  ( $N \geq 6$ 、 $N$ は整数)枚重ねられて、 $N$ 枚の前記同一の幅の用紙の上端部で綴じられ、前記6枚の用紙のそれぞれは前記上端部と他の部分の間にミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、

手前から1枚目の用紙は、前記上端部の下部に所定の領域を有する第1段部を有し、前記第1段部には1月の暦が配置され、

手前から2枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記1枚目の用紙の前記第1段部に相当する部分に前記第1段部と略同一の大きさの領域を有する第2上段部と、前記第2上段部の下部に前記第2上段部と略同一の大きさの領域を有する第2中段部とを有し、前記第2上段部及び前記第2中段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第2上段部に4月の暦が配置され、前記第2下段部に2月の暦が配置され、前記第2中段部の下部に用紙が存在しない場合と存在する場合があり、用紙が存在するときは、ここに所定の領域を有する第2下段部が存在し、前記第2中段部及び前記第2下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、

10

手前から3枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記2枚目の用紙の前記第2上段部に相当する部分に前記第2上段部と略同一の大きさの領域を有する第3上段部と、前記第3上段部の下部で、前記2枚目の用紙の前記第2下段部に相当する部分に前記第2下段部と略同一の大きさの領域を有する第3中段部と、前記第3中段部の下部に所定の領域を有する第3下段部とを有し、前記第3上段部、前記第3中段部、前記第3下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、前記第3上段部に7月の暦が配置され、前記第3中段部に5月の暦が配置され、前記第3下段部に3月の暦が配置され、

20

手前から4枚目から $(N - 2)$ 枚目までのそれぞれの用紙には、前記上端部の下部で、当該用紙の1つ上の用紙の上段部に相当する部分に当該用紙の1つ上の用紙の上段部と略同一の大きさの領域を有する上段部と、前記上段部の下部で、当該用紙の1つ上の用紙の中段部に相当する部分に当該用紙の1つ上の用紙の中段部と略同一の大きさの領域を有する中段部と、前記中段部の下部で、当該用紙の1つ上の用紙の下段部に相当する部分に当該用紙の1つ上の用紙の下段部と略同一の大きさの領域を有する下段部とを有し、前記上段部、前記中段部、前記下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、当該用紙の前記上段部に1つ上の用紙の上段部に記載された月から3箇月先の月の暦が配置され、当該用紙の前記中段部に当該用紙の前記上段部に記載された月から2箇月前の月の暦が配置され、当該用紙の前記下段部に当該用紙の前記中段部に記載された月から2箇月前の月の暦が配置され、

30

手前から $(N - 1)$ 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、 $(N - 2)$ 枚目の用紙の中段部に相当する部分に $(N - 2)$ 枚目の用紙の中段部と略同一の大きさの領域を有する第 $(N - 1)$ 中段部と、前記第 $(N - 1)$ 中段部の下部で、 $(N - 2)$ 枚目の用紙の下段部に相当する部分に $(N - 2)$ 枚目の用紙の下段部と略同一の大きさの領域を有する第 $(N - 1)$ 下段部とを有し、前記第 $(N - 1)$ 中段部及び前記第 $(N - 1)$ 下段部の間に切り離し用ミシン目が入っていて、相互に切り離し可能とされ、当該用紙の前記第 $(N - 1)$ 中段部に1つ上の用紙の中段部に記載された月から3箇月先の月の暦が配置され、当該用紙の前記第 $(N - 1)$ 下段部に当該用紙の前記中段部に記載された月から2箇月前の月の暦が配置され、

40

手前から $N$ 枚目の用紙は、前記上端部の下部で、前記 $(N - 1)$ 枚目の用紙の第 $(N - 1)$ 下段部に相当する部分に前記 $(N - 1)$ 枚目の用紙の第 $(N - 1)$ 下段部と略同一の大きさの領域を有する第 $N$ 下段部とを有し、当該用紙の前記第 $N$ 下段部に $(N - 1)$ 枚目の用紙の前記第 $(N - 1)$ 下段部に記載された月から3箇月先の月の暦が配置されるように、

配列したカレンダー。

【0045】

以上説明したように、本発明は、カレンダーの使用者が月の暦を上から下の順に見るという行為の頻度が極めて高いカレンダーとなるため、カレンダーの使用者の視認性がよくなり、かつ、カレンダーの見た目の印象の違和感が少なくなるという効果を奏する。

50

また、手前から２枚目の用紙では、２月の暦の下部に用紙が不要なため、紙資源を削減させることができるという効果も奏する。

【００４６】

<第２の実施形態>

以下、本発明の第２の実施形態について説明する。

第２の実施形態は、上述した第１の実施形態との間に、手前から２枚目の用紙１２０の第２中段部１２１Ｂの下部に用紙が存在する点が相違する。すなわち、第２の実施形態は、手前から２枚目の用紙１２０の第２中段部１２１Ｂの下部にある用紙以外の説明は、第１の実施形態の構成及び使用方法と同じである。そのため、ここでは、第２中段部１２１Ｂの下部に用紙が存在する用紙について説明する。なお、第２の実施形態における第２中段部１２１Ｂの下部の用紙以外の部分については、第１の実施形態と同様の構成であり、第１の実施形態で使用した符号と同一の符号が用いられている。また、第２の実施形態の第２中段部１２１Ｂの下部の用紙以外の構成及び使用法は、第１の実施形態と同様であるので、説明は省略する。

10

【００４７】

第２の実施形態における２枚目（２ページ）である用紙１７０の構成は、図６を参照して説明する。用紙１７０は、上端部１２１Ｄと、その上端部１２１Ｄの下部で、１枚目の用紙１１０の第１段部１１１Ａに相当する部分に第１段部１１１Ａと略同一の大きさの領域を有する第２上段部１２１Ａと、第２上段部１２１Ａの下部で、第２上段部１２１Ａと略同一の大きさの領域を有する第２中段部１２１Ｂと、第２中段部１２１Ｂと同じ横幅を持つ領域を有する第２下段部１２１Ｃとで構成されている。なお、第２下段部１２１Ｃは第２中段部１２１Ｂと同じ横幅としなくてもよい。

20

【００４８】

第２上段部１２１Ａには４月の暦１２２Ａが配置され、第２中段部１２１Ｂには２月の暦１２２Ｂが配置され、第２下段部１２１Ｃには白紙が配置されている。上端部１２１Ｄ及び第２上段部１２１Ａと、第２上段部１２１Ａ及び第２中段部１２１Ｂと、第２中段部１２１Ｂ及び第２下段部１２１Ｃとのそれぞれの間には、切り離し用のミシン目１２３Ａ、１２３Ｂ、１２３Ｃが入っている。

なお、第２下段部１２１Ｃは、図６に示すように白紙としているが、「ご使用前に、本用紙を切り取り線に沿って切り離してください。」などの文、広告、写真などの情報を配置してもよい。

30

【００４９】

第２の実施形態での本発明のカレンダー１００の使用法は、まず、カレンダー１００の使用前に、カレンダーの使用者が手前から２枚目の用紙１７０の第２下段部１２１Ｃをミシン目１２３Ｃに沿って切り離す作業を行う。それ以後の使用法は、第１の実施形態と同じであるため、省略する。

なお、第２下段部１２１Ｃの切り離し作業は、カレンダーの製作会社で行ってよい。その場合、切り離し作業終了後のカレンダーは、第１の実施形態で説明したものと実質的に同一となる。

【００５０】

40

以上説明したように、第２の実施形態では、カレンダー１００の使用前に、カレンダーの使用者が手前から２枚目の用紙１７０の第２下段部１２１Ｃをミシン目１２３Ｃに沿って切り離す作業をカレンダーの使用前に行うことの違いはあるが、第２の実施形態での本発明のカレンダーは、第１の実施形態と同様に、カレンダーの使用者が月の暦を上から下の順に見るという行為の頻度が極めて高いカレンダーとなるため、カレンダーの使用者の視認性がよくなり、かつ、カレンダーの見た目の印象の違和感が少なくなるという効果を奏する。

【産業上の利用可能性】

【００５１】

したがって、本発明は、３箇月又はそれ以上の月の暦を一度に表示することができる

50

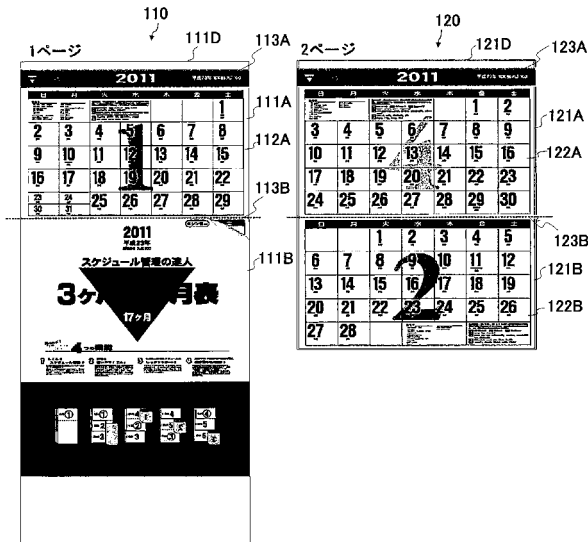
カレンダーに利用可能であり、カレンダー製作・販売の産業や、カレンダーの印刷の産業において好適に利用可能である。

【符号の説明】

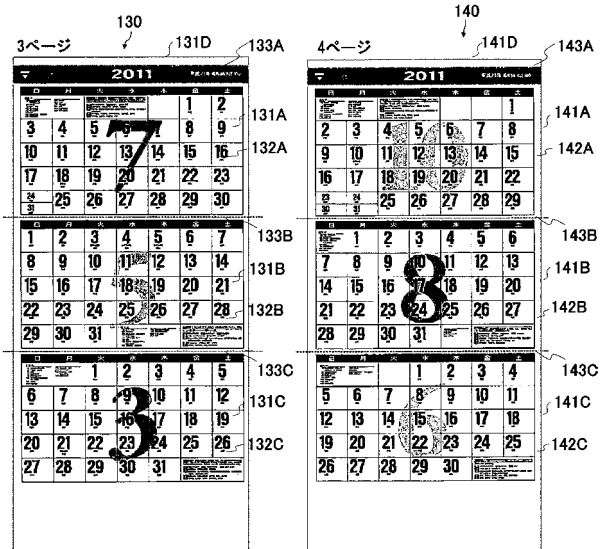
【0052】

1、100	カレンダー	
10、20、30、40、50、60、110、120、130、140、150、160、170	用紙	
11A	領域	
11D、21D、31D、41D、51D、61D、111D、121D、131D、141D、151D、161D	上端部	10
13A、23A、23B、23C、33A、33B、33C、43A、43B、43C、53A、53B、53C、113A、113B、123A、123B、123C、133A、133B、133C、143A、143B、143C、153A、153B、153C	ミシン目	
21A、31A、41A、51A、61A	上段部	
21B、31B、41B、51B、61B	中段部	
21C、31C、41C、51C、61C	下段部	
111A	第1段部	
111B	第1下段部	
112A	1月の暦	20
121A	第2上段部	
121B	第2中段部	
121C	第2下段部	
122A	4月の暦	
122B	2月の暦	
131A	第3上段部	
131B	第3中段部	
131C	第3下段部	
132A	7月の暦	
132B	5月の暦	30
132C	3月の暦	
141A	第4上段部	
141B	第4中段部	
141C	第4下段部	
142A	10月の暦	
142B	8月の暦	
142C	6月の暦	
151A	第5上段部	
151B	第5中段部	
151C	第5下段部	40
152A	次年の1月の暦	
152B	11月の暦	
152C	9月の暦	
161B	第6中段部	
161C	第6下段部	
162B	次年の2月の暦	
162C	12月の暦	

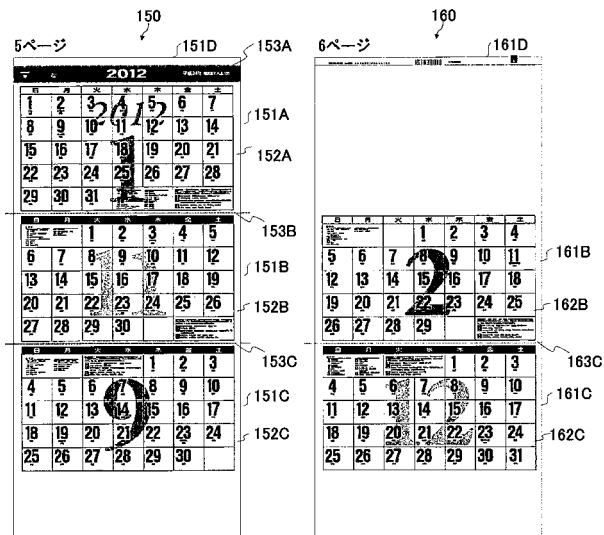
【図 1】



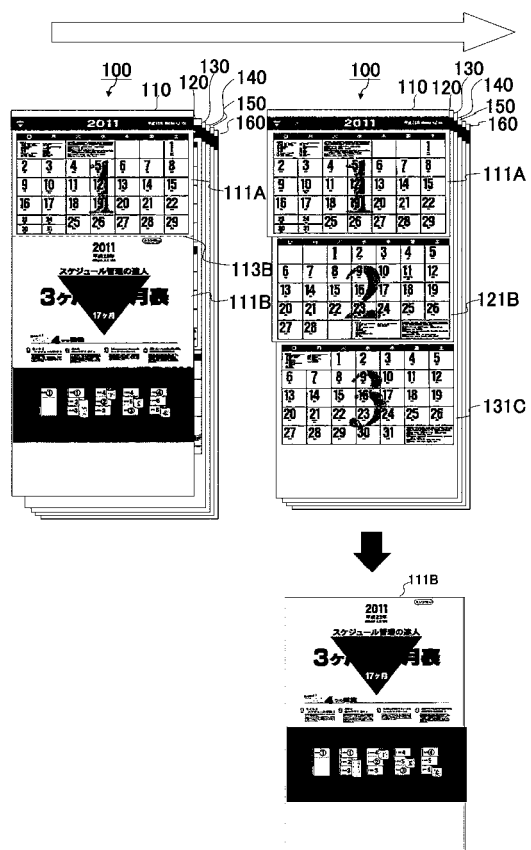
【図 2】



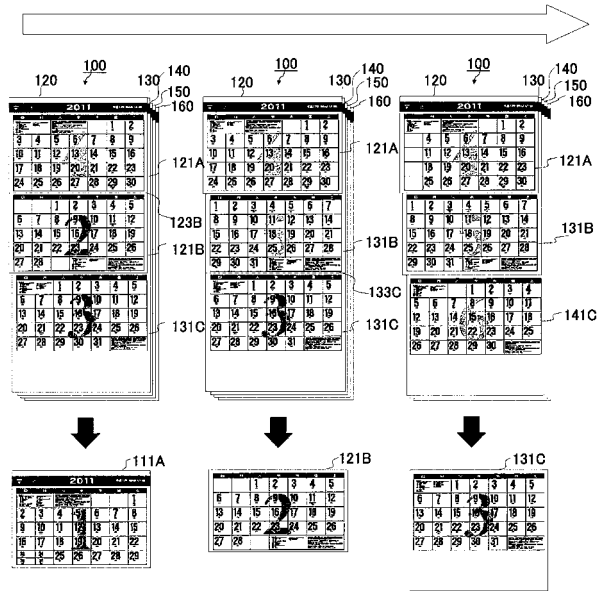
【図 3】



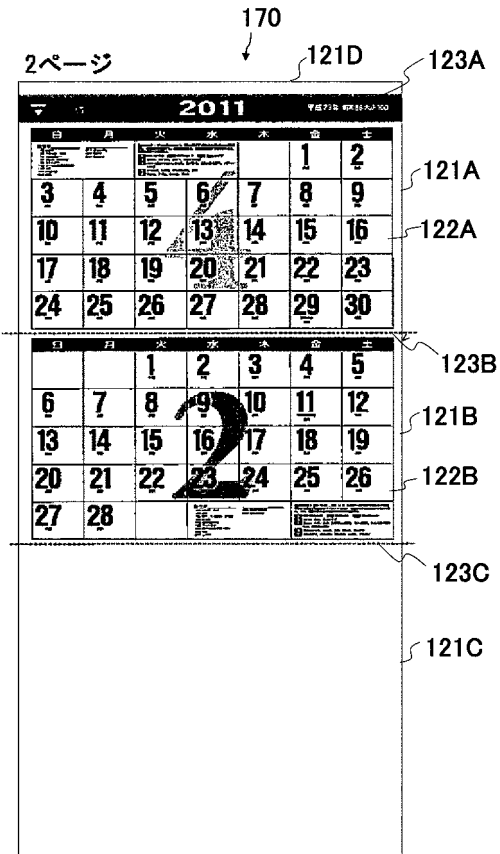
【図 4】



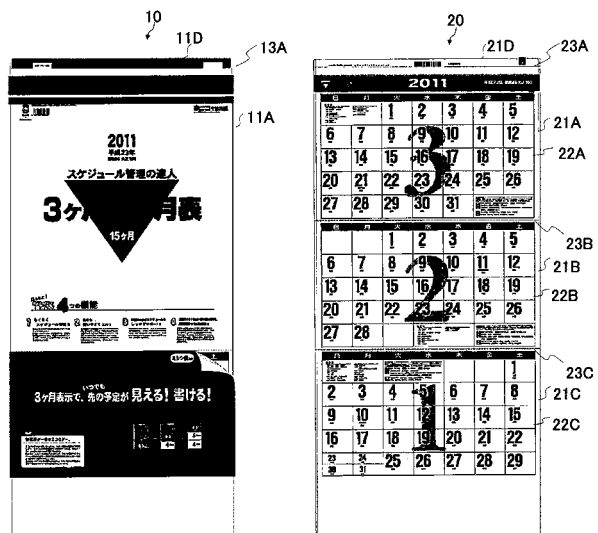
【図 5】



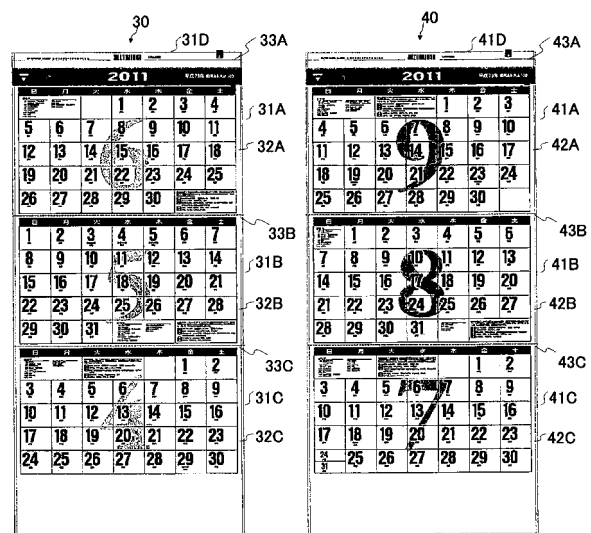
【図 6】



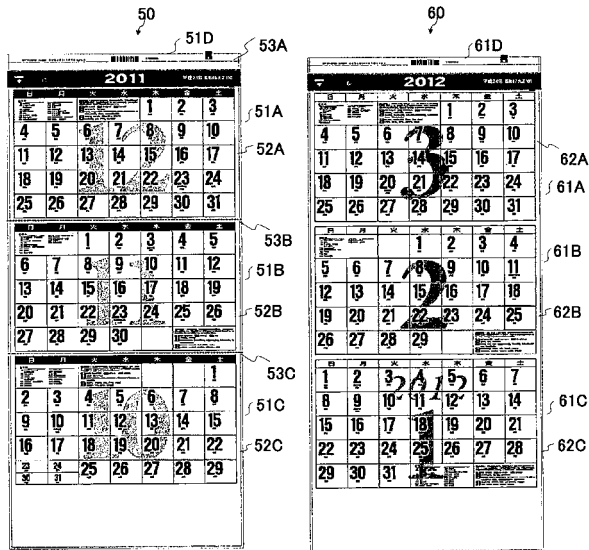
【図 7】



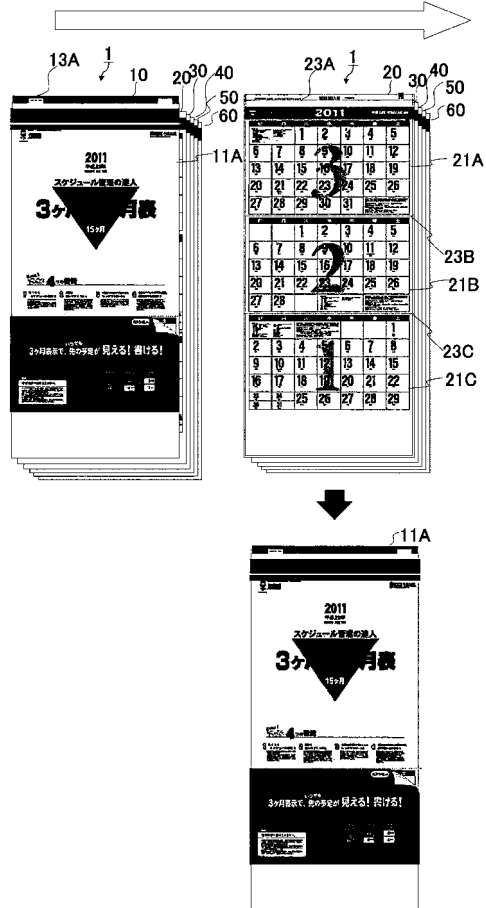
【図 8】



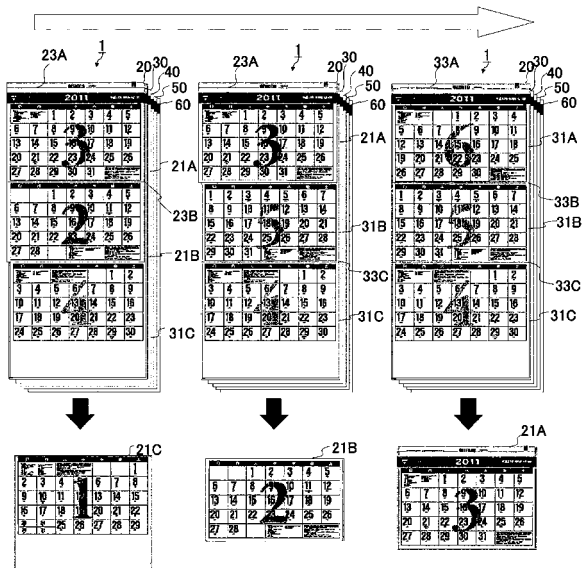
【図 9】



【図 10】



【図 11】





---

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭54-019052(JP,U)  
登録実用新案第3070761(JP,U)  
登録実用新案第3043345(JP,U)  
特開2003-266970(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
B42D 5/06